

りんくう公園内海における 子ども向け環境教育イベントの実施

大塚班 橋本響輝
覚道ゆう
杉本千一

土岐雄人
松浦晃太

活動目的

- 大阪湾沿岸域のフィールドを対象として、沿岸域環境の保護や修復の重要性を理解させる体験型環境教育イベントを実施すること。
- イベントを通して、参加者の海洋環境に対する知識や意識を向上させること。
- 環境活動における我々の企画力や実践力を養うこと。



活動場所

:りんくう公園内海
大阪府泉佐野市に
関西国際空港に面
した場所にある公
園。大阪湾の海水
が入り込む海水池
があり、多くの生
き物が生息する。

活動報告

- ・ 6/6 企画ミーティング (オンライン)
- ・ 6/27 下見、管理事務所の方々と打ち合わせ (りんくう公園)
- ・ 7/24 リハーサル (りんくう公園)
- ・ 7/31 計画書の提出
- ・ 8/21 企画本番
(りんくう公園)

環境教育イベント概要

〈対象〉 小学生

〈内容〉

- ・ 砂浜・岩場探索
- ・ 魚かごの観察
- ・ 屋内での
内海生きもの紹介
- ・ 水槽内の生き物の
スケッチ

内海の生きものとふれあおう！

内海にはカニや魚、藻などの多くの生きものが生息しています。

大阪府立大学の専門の方々が先生になってくれます！



府営りんくう公園

日時	8月21日(土曜日) 13:00~15:40 (雨天時は空日に延期となります)
場所	府営りんくう公園シンボル緑地内海(うちうみ) ※砂浜
対象者	先着5家族(最大人数が20名を定員とします)
参加費	無料 ※お車の方は別途駐車料金(駐車時間によって変動します。 ~3hまで640円/~4hまで760円/~5hまで880円)
持ち物や服装	マスク、飲み物、タオル、帽子、筆記用具、色鉛筆、動きやすく濡れても良い服装。貝殻などで足を切らないような靴(サンダルは不可)。
申し込み	7月21日(水曜日) 10:00より電話・窓口にて受付開始。定員になり次第締め切ります。電話 072-469-7717(管理事務所)
集合時間	12:30に内海で受付を開始します。
新型コロナウイルス感染対策	熱中症対策を優先しマスクは外しても構いませんが、集合する場合は距離を確保できない場合はマスクを着用してください。受付時に非接触型の体温測定、および手指消毒を行っていただきます。また、受付時に大阪コロナ追跡システムに登録していただきます。なお、緊急事態宣言等の発令を受けて中止する場合があります。

主催：府営りんくう公園管理事務所 電話 072-469-7717

協賛：大阪府立大学地域環境活動演習 大塚班

当日の日程

- 13:00～13:15
開会式
- 13:30～14:15
砂浜・岩場探索
- 14:30～14:50
魚かごの引き上げ
- 15:05～15:25
内海の生きものの解説
- 15:25～
生き物スケッチ



当日、手前の砂場と右中央の岩場で生きものの観察を行い、左奥の岩場で、前日に仕掛けた魚かごの引き上げと観察を行った。

屋外での活動

- ・ 砂場、岩場での生物の観察
スコップを用いて、コメツキガニなど、砂場に棲息する生物を観察した。
網を用いて、イソスジエビなど岩場に棲息する生物を観察した。
- ・ 魚かごで捕獲した生物の観察
予め設置しておいた魚かごを引き上げ、魚かごに掛かった生物を観察した。



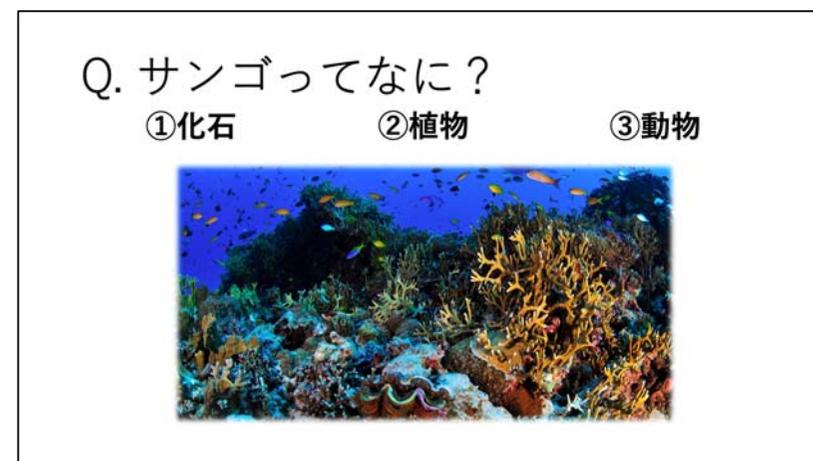
砂場での生物観察の様子



魚かごで捕獲した生物の一例

屋内での活動

- ・海に関するクイズ
PowerPointを用いて、「海のもしものは118番」とサンゴの紹介をした。
- ・レクリエーション
捕獲した生物のスケッチを行い、生物を観察した。



PowerPointの一部



レクリエーションの様子

イベントを終えて①

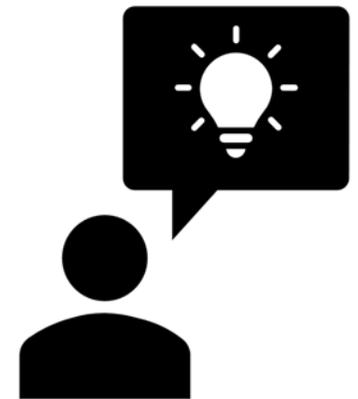


・当日は、雨が降ったりと活動に最適とはいえない状況にもなったが、滞りなく進めることができた。

→2週に1度ミーティングをして入念に準備を進めてきたからであると考えられる。

・開会式で子どもたちの興味を引き付けることができ、安全上の注意などをよく聞いてもらえた。

→海の生き物などについての紹介を
クイズ形式にしたことが
大変良かったと考えられる。



イベントを終えて②

- ・募集人数（5組20人）に対して、すぐに予約が埋まり、キャンセル待ちまで発生した。
一昨年は2組のみの参加であった。

→緊急事態宣言解除直後であり、その他新型コロナウイルス感染拡大防止のための自粛の反動が大きかったことが考えられる。

- ・各組に対してこちらの大学生が一人ずつ就くことで十分安全に活動を行え、真夏であり危険な場所があるにもかかわらず、けが人や体調不良者は出なかった。

→今後も、募集する組の数と大学生の数が同じであり、十分に注意をすれば安全性は損なわれないと考えられる。



イベントを終えて③



- ・カニの採取や、質問に対する回答がうまくできなかった
→進行方法以外にも、技術面や知識面の情報共有を事前にもっとするべきであった。
- ・仕掛けの網により大きな魚やカニを捕獲することで、子どもたちの興味を一層ひきつけた。
→大きな生物は印象的であり、また、スケッチをしてもらうことで後日この体験を思い出してもらえらるであろう。





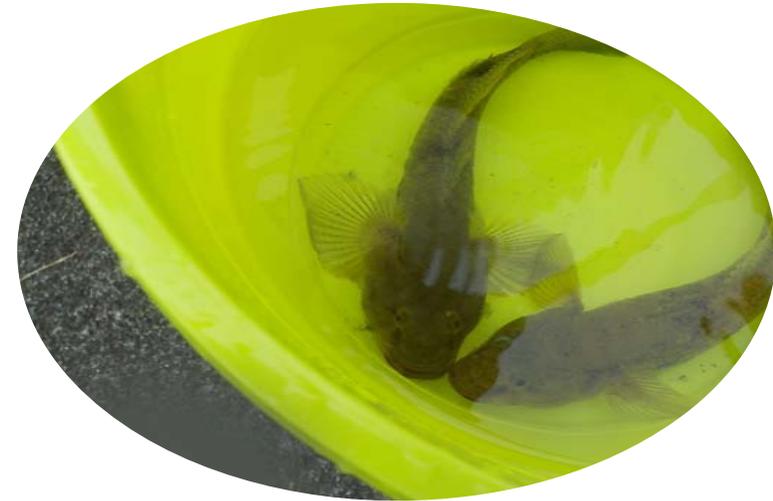
環境 × 教育

- 自分たちが生活を営む地域について知ること
- 実際に「ふれる」こと
- 子どもたちへおもしろい教育を実施すること



今後の課題

- 全体の関連性を向上させる
- イベント参加者の受け入れ数を増やす方法を考える
- 運営側（学生）の知識を向上させる





*Thank you
for listening!*